

リリイ (Lily) は緑眼灰色短毛長尾の雌猫たり。九年前生後半年にて余が家に來たれり。すでに飼主ありてリリイと名付くるも、よんどころなき理由生じ都心のマンションを出で郊外の空廣き我が家に移るは秋の彼岸のことなり。籐を細かに編みたる優雅この上なき籠に入りて車に乗るに、併せ積みたる嫁入り道具車内を埋め盡し、一時間餘の道筋を鳴き通しに鳴き続けけり。爾來車嫌ひになりつるは宜なるかな。

さて思ひもかけず見知らぬ家に降り立ちてあてがはれたるは、目方三十キロを超える犬との同室たり。闖入者として臭ひを嗅がるるやあたまたまれず、他に逃るるところ無ければ組み立て直しつるケージに自ら入り込み、その居心地に昨日までの暮らしを思ひ出しけむや、眼開きたるままじつと動かぬ。やうやう害するもの無しと覺り、ケージの使用こそひと月もたたぬうちに終らぬ、いづくにかよそよそしげの素振りあるは轉居の故かと思ひたり。

譯もなく一年は過ぎ、リリイの成猫となりては、人前に現るるにすらりと背筋伸ばして坐し、長き尾を床面に擦るやうに體に巻きつくる様のストール巻く女優に等しと見ゆるは日々の常なり。月日經ち、猫かはゆがりの言葉通りに蝶よ花よの暮らしの果てに家中を自在に動き回り巨犬を睥睨するに至りたるも、なほ日中は人目避けひっそり寝るを好みたり。

余に悪弊有り。長年の喫煙の故にか還暦を過ぎてよりこの方、咳の出づること多し。職場の健康診断のエックス線寫眞の毎回異常無きに結核、腫瘍の懼れなく、しからば喘息なる診断を覺悟す。辛しと思ふほどの咳き込みあらば禁煙を自ら課するに及ばず、吸ひたしと思へど吸ふを得ずと述ぶるが適切なり。他人には余咳き込むも感染の懼れなしと斷るも一再ならず。

リリイ來たりて三年を過ぎしある時より生活様式大きに變りたり。人との交はり積極的に深めむとする様子にて、何より名を呼ぶや必ず返事するやうになりたるはこれまでに飼ひたる猫にては經驗せざる事なり。その都度腹を上に見せ床に轉がる様は、まさに猫の表情顔にあらず、體全てを使ふ仕草にこそ現るらぬ。昼こそいづくにかに姿くらまし氣配消すも、日くれて家人の一人二人と歸るに合はせ現れ來りて、それぞれに付きまとひ或る者には膝に乗り或る者には水を欲し、寝むとならば人の入りたる蒲團の上にて過ぐすは常の事なり。

煙草止め健康おとづるるかと思ひしに、豈圖らんや咳の止まるを見ず、己む無くステロイド混じりたる吸入劑使用せり。その擧句は良好なる利き目を得、二週ほど使ひたればその後ひと月を樂に過ぐす保證を得たり。なるほどと得心するは、この咳喘息にして他の何物にてもあらざるべし。さすれば喫煙主たる要因に非ざるは、何故ぞと臆めかしう覺えけり。

リリイいつの日よりかお天下さまになりたり。我が家の部屋すべてを思ふままに出入りし、鳴く一聲に家人すべて召使となりつるさまに、貰ひ受けたる當時ここまでに至るとは思はざりけり。一日、佛間に入るや何ものかの氣配あり、耳目動かすも正體明らむる能はず、ややありて見つけたるは佛壇の最上段真正面に氣高く鎮坐しますリリイなり。氣配とはまことに不思議なるものなり。五感に訴ふることなく、何のさやうに感ぜしむるか分別を超ゆるも、そこな何ものか居るを知るは確かなり。

喘息起こりて幾年經にけるか定かにならず、何時の卒業式にや挨拶に立ちたる壇上にて咳き込みし折に隣に居りけむ來賓の誰それより割り出すに、わづかにその年邊りの發端なるべしと思へど、そ

の先の詮索をばすゝろに忌むありてそのままになりたり。人前に出るここ一番に当たりては豫め一週間の念入りなる吸入剤の使用必要なり。思ひ立ちての三日の吸入にては十分なる効果得るは難し。しかるに吸入剤の効果次第に短時日にて終はれりと思ふは氣の所爲なるべく、意圖してそれ以上深く考へざるは件の忌み心なり。

リリーの好物、鯉節、富貴豆、小松菜と決まれり。水は流水をことの他好み、蛇口から器に水落とし溢るる分を飲みたり。家人あらば流しにひよいと乗り誰ぞ自分のために蛇口をひねらむ、蛇口に器を掲げむと募るは常なり。猫は犬と異なり體の臭ひ薄ければ、いきほひ入浴の機會少なし、また散歩の必要もなく手間要らずは確かなり。そがベルベットの如き毛並み変はず輝くばかりにて近隣の牡猫どもの憧れにて、部屋と庭をガラス一枚隔てて相對するさましばしば見るも、リリー眉一つ動かさず。

今春余が同窓と語る機會にありて尋ぬるに君の定年前に教授職辭めたるや何故なると。答ふるに辭するの前二年腎臓を害し、これ以上激務繼續する能はずと思ひきと。如何様の腎障害なるかと重ねて尋ぬるに、世に動物アレルギー多く、一に兎、二に猫なり。その二に當たりたれば、件の猫は里子に出したる由。話聞きてより、あらためて咳の出始めたる時期定めむと思ふも、片や日誌を檢むること敢へてせず、アレルギー物質特定の血液検査などいづくのクリニックでもできやうものを専門家のメールアドレスを確認したるのみにてそのままにするのみ。

この盛夏に當たりての報道熱中症を繰り返し注意せるそのさ中、リリー突然うづくまりて身動きせず、一切の飲食を斷ちたり。前日まで階段を走りて上り走りて下る様を見たるに、際立ちて異常なる出來事にて、クーラー嫌ひの猫なればすは熱中症かと思ひたり。運良く休日にも診療中の近所の動物クリニックにて点滴を受く。既に家では鳴く元氣失ひたるも、翌日動物病院訪ねむと車に乗るや忽ち鳴くことしきりなり。果たして尿毒症の診斷下り、血液の數値言語に絶する極値なり。何らの處置無きまゝに終ふる勇氣出ず、一晚預け点滴の効果試したり。

翌日午前、息子を一人連れて病室を訪ふに、リリー薄暗きケージの最奥にじつとうづくまりて居れり。名前呼びたるに、直ちに訪ふ者誰か知り、力なく立ち上がり、よろよると入口まで歩み寄るにそこにて力盡き再びうづくまり目を閉づ。當日の血液検査の結果夕方には整ふべしと聞き、病室を同じうせる他の猫、犬もあれば、長くもなき面會時間を過ぐしたる後その場を離る。夕方の方をリリーに告ぐるも、如何なる心持にて見送たりや。

果たして血液の検査結果芳しからず、これまでと思ひ定め、余が家に連れ戻ること獣醫に告げ、妻に抱かれて車中に入るも最早鳴くことも無し。慣れ親しめる家人の集まれる部屋に着くや点滴より解放したるに、わづか一日余を留守したに過ぎぬものを、見るものすべて早や懐かしき景色に變わりたるにや、思ひ出ひとつひとつ確かむるやうに體引きずり、階段下に近づける。眞夏の間涼しきがゆゑに自らの寢床と定めし場所を二階にもちたれば、抱きて上がり各部屋を見せたる後に下ろしたればやはりとばかりにその場所に這ひ入りたり。

翌朝、点滴再開すべく階下に居場所作れり、舊盆のさ中のことゆゑ家中揃ひて圍みたる中にうづくまれり。動くこと最早あるまじと思ひきに、脇に水とトイレを置きたれば、やをら起き上がりて箱型のトイレの縁をまたぎ入らむとし、果たさざるもこれリリーの掉尾の矜持たり。翌日靜かに身罷りけり。

獣醫の語るに猫の重なる交配により一部の種にありては遺傳的に腎結石の容易に形成するを見、往々にして致死的事となること知られ居り。リリーはそれが目立つこと二番目の種に屬せり。理路整然た

る説明に余感心し、さらには領域に積み上げ来たれる経験とそこから生まれたる知識の大いなるを理解す。而もなほ、喘息の原因など吟味せざればかかることなかるべしと、余の氣持ち彷徨さまよひ續く。